

GUNDJEIHMI

ABORIGINAL CORPORATION



プレス声明
2020年8月6日

原爆投下 75 周年を迎える広島と長崎への ミラー族からのメッセージ

ミラー族が代々暮らし、所有してきた土地はオーストラリアの北部準州に位置し、カカドゥ国立公園の一部やレンジャーとジャビルカのウラン鉱山もこの土地に含まれます。広島と長崎への原爆投下から 75 周年となる 8 月 6 日と 9 日の記念日をミラー族の人々は悲しい気持ちで受け止めています。

グンジェイツミ先住民族法人 (GAC) はミラー族を代表し、核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) が主催するイベントシリーズ「For the Hibakusha (ヒバクシャのために)」に賛同します。ミラーの土地と日本の深い繋がりに想いを馳せ、75 年ものあいだ核産業が日本人や土地に与え続けてきた甚大な被害を憂いつつ、ミラー族は全ての被爆者に対する連帯のメッセージを送ります。

「この壊滅的出来事を追悼するにあたり、被爆者の方々とそのご家族にお悔み申し上げます。ミラー族の土地と日本には深い歴史があります。ミラー族の意思に反して、主にオーストラリアと日本両国の政府によってレンジャーでのウラン採掘は始まりました。」とグンジェイツミ先住民族法人 (GAC) のジャスティン・オブライアン CEO は言います。

レンジャー鉱山が稼働する前の 1978 年、当時ミラー族の長老だったトビー・ガンガーレさんはミラー族の土地から採掘されたウランが核兵器に使用される可能性を危惧し、こう言っていました。「原爆か何かが開発されたらどうする？日本で使用されたような。とても危険だよ。」

オブライアン CEO はまた、「この厳粛な記念日の度に、世界は核兵器による無差別な死と破壊について考えさせられます。にも関わらず、オーストラリア政府が核兵器禁止条約への署名に対して未だ抵抗しているのは信じ難いことです。」と述べました。